

## ジャーナリズム史を学ぶ意味

- 歴史観 事実・真実・真理の探求
- ジャーナリズムに何が可能か
- ジャーナリズムの発展・成長の歴史
- ニュースの歴史
- Journalism/journalists とは
- 言論の自由 とは

1

ジャーナリズム史2009

ジャーナリズム史2011

## 近代日本メディア人物誌—創始者・経営者編

- ミネルヴァ書房、2009年
- 本書は、近代日本におけるメディアの歴史を、経営者、とくに創始者から読み解く
- 時代の流れの中で、悪戦苦闘しながら、自ら時代と向き合い、切り開いていった経営者たち。彼らの歩みは、日本のメディアの歴史、さらには日本近代史そのものを物語る。メディアとは人である。



2

## 第1部 黎明期のメディアを創った人々

- (岸田吟香—幕末に新聞雑誌を創刊、日本初の従軍記者；
- ジョン・レディ・ブラック—開化日本を報じた英国人ジャーナリスト；
- 福地桜痴—世論の風潮を顧ずして往進すべし；仮名垣魯文—軽妙な文体とゴシップで庶民を新聞に親ませた戯作者；
- 福沢諭吉—「日本一の時事新報」の盛衰；矢野龍溪—『郵便報知新聞』で新聞大衆化を断行；
- 村山龍平—『朝日新聞』を全国紙に育てた経営者；黒岩涙香—スキャンダル報道で読者をつかむ；
- 徳富蘇峰—明治・大正・昭和三つの時代をリードした新聞記者；
- 陸羯南—孤高の新聞記者；秋山定輔—利益と言うよりは寧ろ一人でも余計に読んで貰う；
- 本山彦一—新聞紙も一種の商品なり；
- 瀬木博尚—活字文化を支えた広告人；
- 光永星郎—世界の伝電通の創業者)

3

## 第2部 メディアの変革を主導した人々

- (大橋新太郎—「博文館王国」を築いた出版人；
- 佐藤義亮—文学出版社・新潮社の創立者にして近代文学史のプロデューサー；
- 羽仁もと子—生活への着目から『婦人友』へ；嶋中雄作—読者は単なる商品の顧客とは違ふ；
- 山本実彦—「出版界の四天王」の栄光と挫折；
- 菊池寛—生活第一、芸術第二；
- 野間清治—「雑誌王」の立身出世主義；岩波茂雄—出版の理想を求めて；
- 小林一三—「大衆本位」「家庭本位」を貫いた異色の実業家；下中弥三郎—出版は教育である；
- 岩永裕吉—通信社の基礎を築く；
- 正力松太郎—読売新聞・日本テレビの総帥；
- 前田久吉—『大阪新聞』『産経新聞』の創立者；
- 今道潤三—俗番組に徹せよ；前田義徳—NHK中興の祖)

4

## コミュニケーション史からみた時代区分

1. 筆記コミュニケーションの時代:  
oral, chirographia
2. 印刷コミュニケーションの時代:  
typographic → ゲーテンベルグ: [慶応大学図書館](#)
3. 電気通信の時代: electronic
4. インタラクティブ・コミュニケーションの時代
  - 身体の拡張: マクルーハン

5

ジャーナリズム史2011

## 1 文字出現以前のコミュニケーション

- 人類の出現=human communicationの発達: homo alarus=言葉をもたぬ人
  - 身振り(gesture): 人間と動物の違い
    - 意味の記号と感情の表出
    - (1) ことばと手: 直立姿勢+手(hand) → 道具
    - (2) 絵画: ラスコ、アルタミラ (2.5~4万年前)
- 2,000万年前 200万年前 150~200万年前 数万年前  
←←サルからヒトへ→ → ←ホモエレクトス→

ジャーナリズム史 I (2011)

6

## 2 文字の発生後のコミュニケーション

- 音声信号から文字言語への転換
- 視信号・視聴覚信号
- 絵・絵画－絵文字－象形文字－表意文字  
－表音文字
- 時間的、空間的および表現上の制約からの解放